

平成6年のマツタケ発生状況について

1. 最近15年間の発生状況

このところ国内産のマツタケは大変に貴重な存在となっており、毎年マツタケの作柄については多くの方面から関心が寄せられています。

全国のマツタケ生産量は昭和30年代の初めに5千トン余りあったものが、最近ではこの1割にまで激減してしまいその代替として外国産マツタケが2千トンも輸入されるようになり、古き良き時代を知る人々にとっては国内産マツタケに一層の郷愁を感じるのではないのでしょうか。

長野県のマツタケも過去に百トン台を記録しましたが、最近ではこの半分ほどに減少しています。しかし、全国の減り方に比べれば緩慢な方で、広島、岡山、京都に続く生産量を維持しています。

とは言うもののマツタケの発生はその年の気象条件によって大きく左右されており、事前に作柄を正確に予想することはかなり困難な状況といえ

ます。表-1には最近15年間の生産量の維持をまとめましたが、全国と長野県の間を見比べると毎年同一傾向とは言えず、地域によって豊凶作が生じることが判ります。

また、この間の本県の平均値は30.9トンで、これを大きく上回る豊作年としては5回程度みられ、ほぼ3年に1回の頻度といえます。なお、本県の発生量と主な気象との関係を摘要に付記しましたが、春から夏にかけての菌根の発達期と秋のマツタケ発生期の条件が整って初めて豊作になるもので、早い時期ほど予想が難しいといえます。

2. 豊丘村試験地の調査結果から

当センターで設置している試験地のうち、下伊那郡豊丘村の調査結果から昨年の発生傾向を紹介しましょう。

まず、対象区、施業区分の収穫本数を表-2に示しましたが、平成6年は両区とも平均値を大き

表-1 最近15年間のマツタケ生産量の推移 単位：トン

年度	全 国	長野県	比率%	摘 要 (長野県の気象との関係)
S.54	658.1	56.2	8.5	夏の温度上昇と秋の降雨により豊作
55	456.9	28.7	6.3	冷夏の影響で平年作
56	207.7	29.6	14.3	引き続き冷夏の影響で平年作
57	483.5	31.1	6.4	冷夏の影響で夏マツタケが見られるも平年作
58	742.3	37.8	5.1	温度は上がったものの秋の長雨でやや良止まり
59	180.1	8.4	4.7	温度は上がったものの発生期の早ばつで凶作
60	819.9	24.5	3.0	温度は上がったものの8～9月の早ばつで平年並
61	199.4	20.4	10.2	春～夏の低温と秋の早ばつでやや不良
62	463.7	19.7	4.2	温度がやや低く8～9月の早ばつでやや不良
63	405.5	47.4	11.7	夏の温度上昇と豊富な雨で豊作
H. 1	456.0	27.4	6.0	秋の残暑のふり返しがあり平年作
2	513.0	28.8	5.6	温度は上がったものの秋の雨が遅れ平年作
3	267.0	54.7	20.5	順調な温度上昇並びに適期の雨で豊作
4	187.1	0.5	0.3	温度は上がったものの秋の大早ばつで凶作
5	350.0	47.8	13.7	梅雨期の低温長雨で夏マツタケ大発生、秋は平年並
平均	426.0	30.9	8.0	

く下回る不良な状態でした。この原因を考察するため関係する気象条件を図-1に示しました。

菌根の発達期である春から夏の条件のうち、地中温度は順調に上昇し夏の最高温度もかってないほど上がって本県には好因子と思われました。しかし、降水量は総じて低く、特に梅雨期は異常に小雨で危惧されましたが、平成4年の秋の干ばつに比べるとまだ影響は少なかったようです。

秋の発生期の条件のうち、地中温度では残暑の影響で原基形成温度帯に下がったのが9月下旬と大幅に遅れ、発生期間も11月までずれ込みました。きのこの発生量を大きく左右する原基形成期の降雨としてはタイミング良くみられましたが、遺憾せん絶対量が少なかったために発生量は伸びずに終わったという状況でした。

次に、月別降水量とマツタケの発生本数との関係を表-3に示しました。これでは9月の降水量が最も関係深いと認められるもので、前述の原基形成期の降雨が重要といえる所以です。そして、過去の発生状況と見比べると9月に300mm程度と

表-2 豊丘村試験地マツタケ発生本数の推移

年度	対照区		施行区	
	シロ数	発生本数	シロ数	発生本数
S.55	6	154	8	61
56	6	148	9	224
57	7	267	13	327
58	8	379	13	421
59	8	103	13	110
60	8	219	14	342
61	8	135	14	248
62	8	92	14	154
63	8	380	19	592
H.1	8	110	19	163
2	8	147	19	228
3	8	205	20	413
4	8	0	20	3
5	8	211	21	344
6	8	60	21	74
平均		174.0		246.9

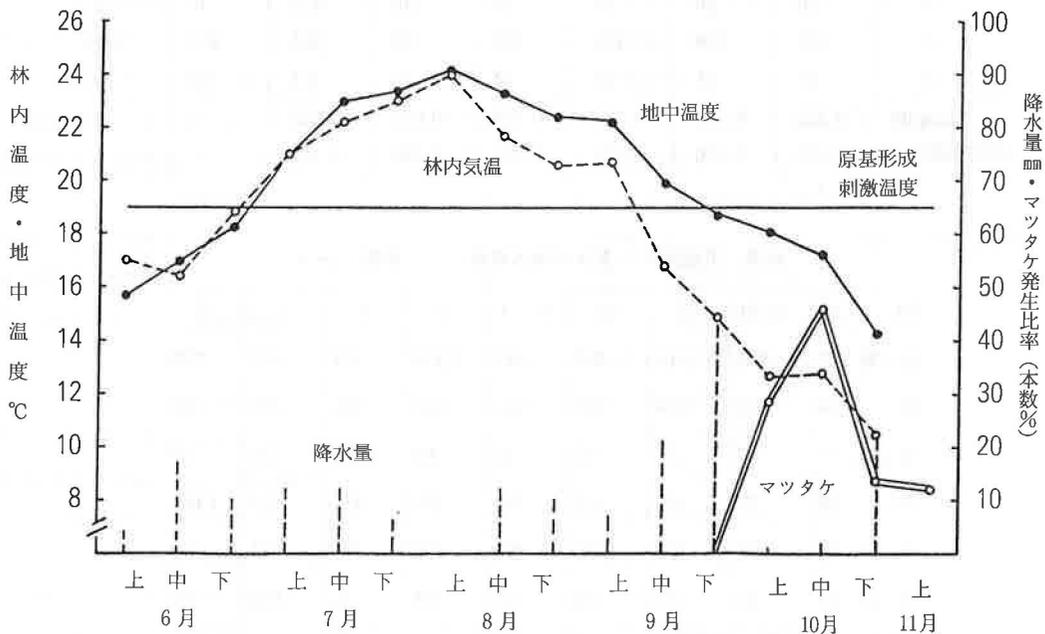


図-1 平成6年度マツタケ発生経過と気象条件（豊丘村施業区）

まとまった降水量のある年に良好な発生が得られていることが認められます。

3. その他地域の状況

マツタケ試験地としては県下にこの他4箇所を設けていますがこれらの状況は次のとおりです。辰野町では5年の3本に対して6年は0本（シロ数1）、塩尻市では5年の141本に対して6年は55本（シロ数24）、上田市では5年の129本に対して6年は81本（シロ数6）、松川町では5年の30本

に対して6年は10本（シロ数8）の発生で、概して中南信は不作、東信がやや平年作を下回るといった状況でした。県下全体のすう勢としても5年の半作程度の作柄で前述の平均値を下回ることが確実視されています。

また、全国的な状況としては西日本は秋の干ばつのために不作に終わっていますが、岩手県では夏の高温と秋の降雨が合致して前例のない豊作であったとのことです。（特産部 小出）

表-3 豊岡村試験地における月別降水量とマツタケ発生本数の相関

年	月 別 降 水 量 a						マツタケ発生本数b	
	6	7	8	9	10	合計	対照区	施業区
S.57	28	192	239	345	42	846	267	327
58	71	145	75	343	85	719	379	421
59	156	72	53	72	29	382	103	110
60	198	177	69	153	75	672	219	342
61	86	109	128	84	38	445	135	248
62	65	101	52	82	66	366	92	154
63	294	130	128	395	85	1032	380	592
H. 1	222	144	94	405	97	962	110	163
2	51	85	24	224	112	496	147	228
3	195	122	40	287	278	922	205	413
4	76	80	37	52	170	415	0	3
5	181	278	163	239	90	951	211	344
6	31	31	23	71	25	181	60	74
a, bの相関	0.353	0.506	0.477	0.729	-0.007	0.673	-	-
対象係数始業	0.523	0.526	0.434	0.711	0.180	0.751	-	-

付表 外国産マツタケの輸入推移 単位：トン

国 名	S.61	62	63	H. 1	2	3	4	5
北 朝 鮮	473	814	402	813	1,318	301	597	383
韓 国	282	569	427	797	823	305	749	131
モ ロ ッ コ	95	24	21	12	66	60	23	19
中 国	89	143	259	280	198	413	453	1,064
カ ナ ダ	33	157	233	195	152	311	244	279
そ の 他	8	5	88	113	104	45	178	67
合 計	980	1,712	1,430	2,210	2,661	1,435	2,244	1,943